

「夢ビジョン2020」に意見を届けるまでの流れ

「夢ビジョン2020」をご存じでしょうか？

文部科学省が、未来の日本社会をより良くしていくために、スポーツ選手や芸術家をはじめ幅広い立場の人々の意見を取り入れて作り上げた、日本の未来ビジョンです。

その中で私たちPESTI※は、市民のみなさんの意見を政府へ届けるために、

「知ろう・語ろう・届けよう 科学技術イノベーション政策」と題した、3回シリーズのワークショップを開催しました。

そして一連の活動のまとめとして、4月29日にシンポジウム

「大阪発! 2020 オリンピックイヤーへの夢ビジョン～科学技術イノベーション政策にモノ申してみた～」を開催しました。

このシンポジウムでは、意見を出してくださった方々へワークショップの成果をご報告するとともに、ワークショップにかかわった市民、PESTI、政策立案者の3者の対談を通して「意見を政策へ届けること」の大切さや難しさについて考えました。

本冊子では、このシンポジウムの内容を中心に、一連の活動についてご報告いたします。

※ ペスティ
PESTI とは



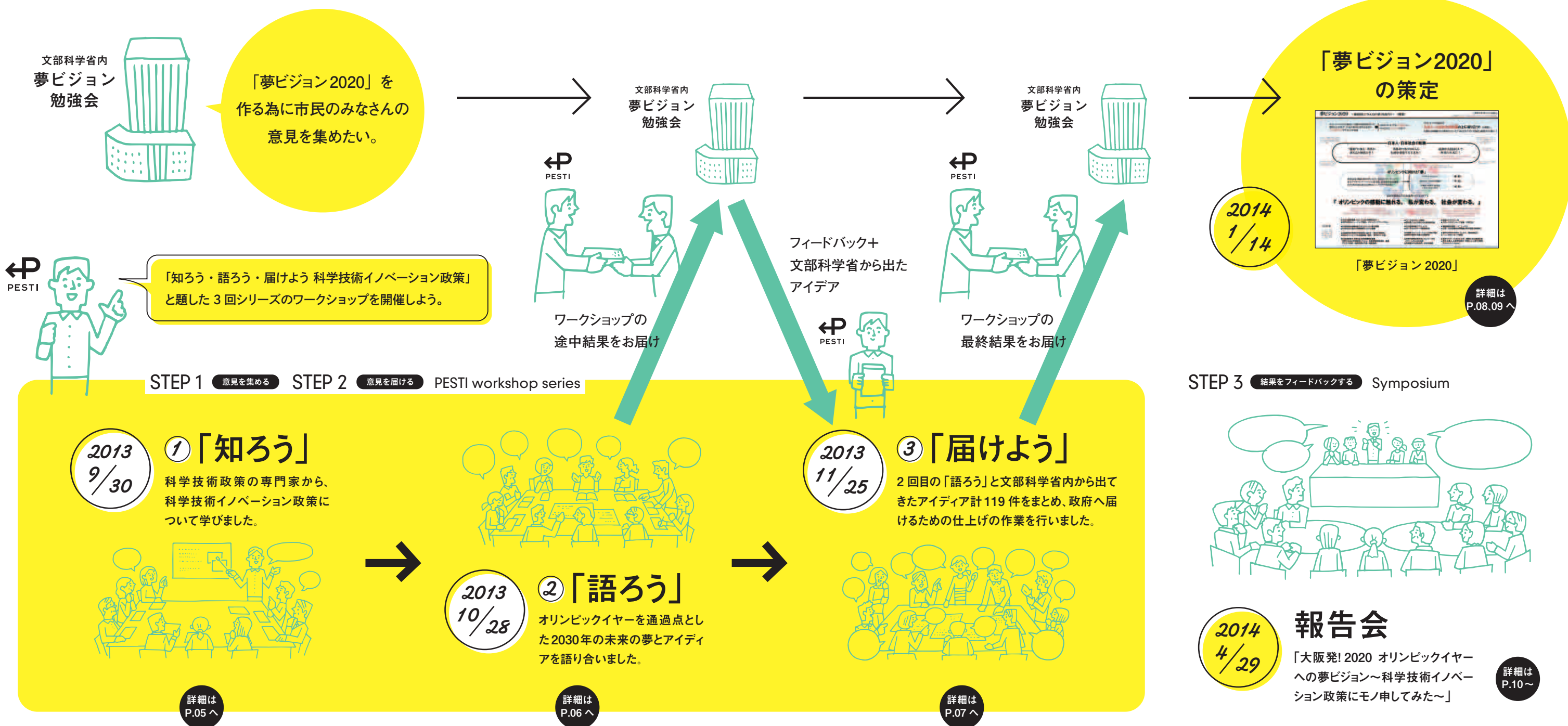
STIに向けた政策プロセスへの関心層別関与フレーム設計
Framework for Broad Public Engagement
in Science, Technology and Innovation Policy

PESTI (=ペスティ) は、国民のニーズや意見を政策プロセスに繋げることを目指すプロジェクトです。京都大学、大阪大学、神戸大学、滋賀大学、鳥取大学、帝塚山大学の6大学に所属する研究者らが2012年に始めた研究開発プロジェクトで、政府が推進する「政策のための科学」事業の1つです。

PESTI のイベントに参加するには？

HP でイベントをお知らせしています。
PESTI で検索。

詳細は
p.03 へ



報告会 (シンポジウム) で何を話したの？

4月29日に開催された、シンポジウム「大阪発! 2020オリンピックイヤーへの夢ビジョン
～科学技術イノベーション政策にモノ申してみた～」での話し合いの抜粋です。

詳細は
P.10～

登壇者



Kei Kano
加納 圭
(PESTI代表／滋賀大学／
京都大学／JST-RISTEX)

市民が「将来への夢」について
語る場を仕掛けた人



Takuya Saito
齊藤 卓也
(文部科学省)

市民の「将来への夢」を
受け取った人



Hiromi Matsumoto
松本 洋美
(主婦)



Wakana Azuma
東 若菜
(大学院生)

「将来への夢」を
語り合う場に参加した人



Eri Mizumachi
水町 衣里
(PESTIメンバー／
京都大学)



Masayuki Itoh
伊藤 真之
(PESTIメンバー／
神戸大学)

司会・進行

① 意見が「届く」って どういうことだとおもいますか？



そもそも届くプロセスがいまいち見えないので知りたい。
届けられたプロセスを聞くと、ああ届いたんだなと実感しました。
(→P.20、22)



文科省から「実現されましたよ」とお知らせがほしい。
政策として動き出した時が、届いた時だ。(→P.19)

(会場) 届いたのかという疑問を直接、政策立案者(齊藤さん)にぶつけられ
たことはすごい。全国でやってほしい。(→P.23)

② 市民の意見を聞く窓口って、 いつも開いている？



基本的には常に。幅広い意見を聞こうという全体の流れがある。実
際にどれくらい受け入れられるかは状況や中身による。1人1人がば
らばらに来ると難しい。(→P.23)



ある意味ではつなぐ役割が大事かもしれない。窓は開いていても、
一市民としてアプローチは難しい。(→P.24)



たくさんの意見が集約され、短い言葉でまとめられると、具体的なア
イディアが埋没してしまう懸念がある。(→P.25)



1つ1つの意見が見えるよう、文言との結びつきをどうトレースする
かが課題。(→P.25)

③ 意見を出した人へのフィードバックが必要(会場)

(会場) コメントを出した人に満足してもらわないと次につながらない。どう
やって意見を吸い上げつつ、満足してもらうか。全国展開した際にど
うやっていくべきか。(→P.26)



シールが頂ければうれしい。宣伝に使ったり、人にあげたりできる。
(→P.28)



ワイドショーなどで、アスリートなどの有名人が出て話すのは？
(→P.28)



政策の骨格を作るときには、今回のように上流の段階で互いに色々
やり取りしながら作っていくのが良いと思う。(→P.30)

④ タウンミーティングなどとの違いは？



一番の違いは、(PESTIの方が市民の方々の意見をまとめる際に)「もう少し、
こういう観点で議論していただくといいのだけれど」とか「もう少しこうい
う方向でまとめてもらおうと、次の資料に使いやすいのだけれど」という
キャッチボールができたところ。市民の方にボランティアに集まってやって
もらえたことは新鮮だった。(→P.27)

⑤ 厳しいコメントへの対応は？(会場)



理想は、プラス意見もマイナス意見も常に受け取り議論すること。多
様な意見を集約し届ける仕組みづくりが必要。(→P.30)



市民からは「あかんあかん」のマイナス意見が出がち。でも今回のビ
ジョンにはポジティブに変換されて反映してもらえたように感じる。
(→P.31)



ネガティブな意見をひっくり返してもんでいくと、ポジティブになる。
そうやって届けると、ネガティブ意見もうまく反映されていくのでは
ないかと考えている。(→P.32)

⑥ 自分の意見が届くと感じることが大切



今回自分の意見がきちんと届くのだと知って印象が変わった。届くの
だということを知らないと動こうとは思わない。(→P.33)

(会場) パブコメはハードルが高く、昔もう二度と出すまいと思ったが、そう
思ったのは届いた感がなかったからだと気付いた。届いたと感じられ
ることは大事。(→P.43)

⑦ 今後の課題は？



ビジョンに市民の意見の言葉は入ったが、ここから先だと思う。どう
いう方向なり予算なりで動いていくのかはこれからなので、動きを止
めないようにみんなで盛り上げていきたい。(→P.35)



届くのだということが分からないと一歩踏み出せない人もたくさんい
るはず。ぐるぐる廻るように、活動を継続することが求められる。計
画を作り始める段階で関わってゆくことが重要。(→P.34)

⑧ 意見の「熱さ」も政府まで届けたい(会場)

(会場) 文書になると意見の熱さや強い思いが消えた状態で届けられてしま
う感じがする。(→P.37)



意見をそのまま箇条書きし、言葉使いを残す方が伝わるのでは。
(→P.38)



仲介人がいた方が、自分の思いが具現化されて熱さがきちんと伝わ
る気がする。(→P.39)



互いの理解を深めることで、より良いコミュニケーションができるか
もしれない。(→P.39)

(会場) 熱い思いというのも非常に重要だが、意見の本質をいかに伝えるか
が重要では。(→P.41)